

1. アセスメントプランの目的

学生の入学時から卒業後までの成長を視野に入れた3つの方針（入学時：AP、在学時：DP・CP、卒業時：DP）に基づいて教育活動が適切に機能し、学生が確実にディプロマ・ポリシーを達成できているかどうかの視点から、学生が身に付ける能力（学修目標）を明確に定め、学生の学びを効果的に支援できるよう、授業科目レベル、学位プログラムレベル、全学レベルそれぞれで学修成果・教育成果を把握・可視化し総合的に点検・評価することで教育改善を行うことを目的に、アセスメントの方針を以下に定める。

2. アセスメントプランの対象

基盤教育、各学部、各研究科及び別科の教育活動を対象とする。

3. 授業科目レベルの点検評価

授業科目ごとに、DP と授業科目との関連性をシラバスに明記し、授業を通じて何を身に付けることができるのかを到達目標として示す。到達目標に応じた適切な成績評価方法例については別表1をふまえ、学生の身に付けた力を適正に把握する。

また、授業改善につなげるため、各授業科目を毎年度点検評価するため、授業評価をふまえた「教育改善を可視化する主体的 Check & Action システム」（以下、C & A システム）を実施する。

C & A システムは、教育推進本部主導のもと、①一定の様式と年間スケジュールに基づいて（システム）、基盤教育、学部学科、研究科及び別科ごとに定めた教員チームにより、②授業改善に関わる学生の授業評価等の各種データを適切に評価し（主体的 Check）、③教育改善策を次年度のシラバスに反映させる（主体的 Action）。

C & A システムの具体的な手順等は、各年度の運用マニュアルによる。

4. 学位プログラムレベルの点検評価

学位プログラムごとに定めたディプロマ・ポリシーに基づいて、学生が何を身に付けることができるのかを学修目標として明示し、別表2に示した学修目標の達成状況に関する様々な情報を体系的・複合的に収集、分析、解釈することで（点検項目の体系化）、学修成果を適正に把握して可視化を行い（把握・可視化）、カリキュラム改善に反映させる取り組みを行う（改善）。

学位プログラムレベルの点検評価時期の目安は、カリキュラム開始1～4年目に、個々のデータを収集・集計・保存し、データ集計で気づきがあれば、課題を抽出し、改善等の可能性を探る。5年目に、個々のデータを組み合わせて総合的に分析し、課題を抽出し、ディプロマ・ポリシー・学修目標とカリキュラムポリシーの一貫性から、カリキュラムを評価し、改正の必要性を検討する。

5. 全学レベルの点検評価

授業科目レベル及び学位プログラムレベルで日常的な点検・評価が行われているかどうかの確認は、学則第2条に基づく自己点検評価により実施する。

また、自己点検評価の結果により3つの方針の修正や教育課程の再編成等の必要が生じた場合には、学長のリーダーシップの下で教育改善を進める全学的な組織を整備して実施する。

(附則)

このアセスメントプランは、令和4年度に開始するカリキュラムに適用する。

別表1. 到達目標に応じた適切な成績評価方法の例

	知識・技能 (DP1)	思考力・判断力・表現力 (DP2)	主体性・多様性・協調性 (DP3)
授業態度			◎
小テスト	◎		
自主学習態度			○
レポート	◎	◎	○
プレゼンテーション	○	◎	○
学期末試験	◎	◎	

◎：適切な成績評価方法、○：適切だが、工夫が必要な成績評価方法

別表2. 各教学組織の学修目標の達成状況を把握するための情報

【基盤教育】

DP	学修目標	情報			
		各授業科目における達成状況 (直接評価)	外部アセスメント テストの結果 (GPS-Academic)	外部語学検定試験 のスコア (TOEIC)	学修目標の達成度 アンケート (間接評価)
【DP1】 多様化する地域社会の複合的な諸課題を理解し、それらを解決するために必要な基礎的な知識、基礎的な言語運用能力、基礎的な数理・データサイエンスの能力を身に付けている。	【学修目標1-1】知識 地域社会の諸課題や人々の健康問題について理解し、説明することができる。	○			
	【学修目標1-2】技能(言語) 基礎的な言語運用能力を身に付けている。	○		○	
	【学修目標1-3】技能(DS) 基礎的な数理・データサイエンスの能力を身に付けている。	○			
【DP2】 社会の様々な対立する価値や相反する課題を発見し、多様な知識を集約して批判的に検討することで、根拠に基づく解決策を論理的に分かりやすく伝えることができる。	【学修目標2-1】思考力 社会の課題について解決するための批判的思考力を身に付けている。	○	○		○
	【学修目標2-2】判断力 社会の様々な対立する価値や相反する課題を発見し、評価することができる。	○	○		○
	【学修目標2-3】表現力 自己の主張について、根拠に基づいて、論理的に分かりやすく伝えることができる。	○	○		
【DP3】 異なる文化や考えを持つ人々とともに、多様な経験を積み重ねることによって、不確実な社会に対しての柔軟な対応力を有し、自ら考え主体的に行動してより良い社会や人生を実現するために、生涯を通じて学び続ける力の基盤を形成している。	【学修目標3-1】主体性 自ら考え主体的に行動して、責任を持って行動しようとする意欲や態度を身に付けている。	○	○		○
	【学修目標3-2】多様性 不確実な社会に対しての柔軟な対応力を発揮することができる。	○	○		○
	【学修目標3-3】協働性 異なる文化や考えを持つ人々とともに、多様な経験を積み重ねることができる。	○	○		○

【国際文化学科】

DP	学修目標	情報					
		各授業科目 における 達成状況	外部アセス メントテス ト (GPS- Academic)	語学検定の 達成状況	日本語およ び外国語に よるプレゼ ンテーショ ン	卒業論文・ 制作・報告 の水準	学修目標の 達成度 (自 己評価) 調 査
【DP1】 グローバル化する国際社会において、多様な文化の価値を幅広く理解することで、国際的視点を持ち、地域の国際化に対応できる知識及び外国語運用能力を備えている。	【学修目標 1-1】 国内外の自らが暮らす地域の文化を理解できる知識を有する。	○					○
	【学修目標 1-2】 多文化社会において必要となる基礎的な知識を有する。	○					○
	【学修目標 1-3】 多様な文化を理解できる国際的な視点と外国語運用能力を身に付けている。	○		○			○
【DP2】 異文化を尊重できる柔軟な思考力を持ち、異なる文化・世代の人々とも未来に向けた対話ができる判断力・表現力を身に付けている。	【学修目標 2-1】 国内外の社会的・文化的多様性を尊重できる柔軟な思考力を有する。	○	○				○
	【学修目標 2-2】 物事の文化的側面を公正に判断することができる。	○	○				○
	【学修目標 2-3】 異なる文化、世代間でも交流できる論理的な表現力を有する。	○	○		○		○
【DP3】 自らが暮らす地域コミュニティや働くフィールドで、対話と協調に基づいたパートナーシップを育み、地域の国際化のために主体的に行動することができる。	【学修目標 3-1】 国内外の多様な文化的背景や異なる考えを持つ人に、対話と協調に基づいたパートナーシップを育むことができる。	○	○				○
	【学修目標 3-2】 身に付けた知識と経験を活用して、地域の国際化のために主体的に行動できる。	○	○			○	○

【文化創造学科】

DP	学修目標	情報				
		各授業科目における達成状況	外部アセスメントテスト (GPS-Academic)	自主学習を含めた正課内外の活動	卒業演習の成果 (卒業論文・卒業制作) の水準	学修目標の達成度 (自己評価) 調査
【DP1】 日本文化を含めた多様な文化の価値を幅広く理解するための知識を有し、地域文化を発信していく技能を身に付けている。	【学修目標 1-1】 多文化が共存する現代社会に貢献することができるよう、日本文化をはじめ多様な文化についての知識を身に付けている。	○				○
	【学修目標 1-2】 地域文化の諸課題に対応することができるよう、日本文化やデザイン創造についての発展的な知識を身に付けている。	○				○
	【学修目標 1-3】 地域文化の創造と発信に携わることができるよう、日本語リテラシーとプレゼンテーション能力を身に付けている。	○		○	○	○
【DP2】 異文化を尊重できる柔軟な思考力を有し、地域文化の価値を適切に判断し、創造的な発想力と知的好奇心をもって、自己の考えを伝えることができる。	【学修目標 2-1】 積極的に文献や情報にふれ、日本文化や地域文化の価値について、批判的に思考する力を身に付けている。	○	○	○		○
	【学修目標 2-2】 日本文化や地域文化に携わり、それらの文化的価値を適切に判断することができる。	○	○	○		○
	【学修目標 2-3】 柔軟な発想力と知的好奇心を備え、アイデアを言葉や絵・デザインを用いて表現することができる。	○	○	○		○
【DP3】 自らが暮らす地域コミュニティや働くフィールドで、対話と協調に基づいたパートナーシップを育み、個性豊かな地域文化の振興と創造に資することができる。	【学修目標 3-1】 自らが暮らす地域コミュニティで様々な立場の他者との協働性を発揮することができる。	○	○	○		○
	【学修目標 3-2】 個性豊かな地域文化の振興と創造に、主体的に取り組むことができる。	○	○		○	○

【社会福祉学科】

DP	学修目標	情報			
		各授業科目における達成状況	外部アセスメントテスト (GPS-Academic)	大地共創コンピテンシー	学修目標の達成度 (自己評価) 調査
【DP1】 地域共生社会における多様な福祉ニーズに対応するために、広い視野と専門的な知識を有し、人々の生活課題の解決に向けて人や環境に働きかける技能を身に付けている。	【学修目標1-1】 個人・家族・社会の観点から社会における多様な福祉ニーズを理解する知識を身に付けている。	○		○	○
	【学修目標1-2】 人々の生活課題の解決に向けて人や環境に働きかける技能を身に付けている。	○		○	○
【DP2】 共感性と想像性を備えた柔軟な思考力と、人々の生活課題の発見と解決に向けた判断力を有し、自己の考えを他者に論理的に分かりやすく伝える表現力を身に付けている。	【学修目標2-1】 人々の生活課題について共感性と想像性をもって柔軟に思考する力を身に付けている。	○	○	○	○
	【学修目標2-2】 人々の生活課題を発見し、解決に向けて判断する力を身に付けている。	○	○	○	○
	【学修目標2-3】 人々の生活課題解決について自己の考えを他者に論理的に分かりやすく伝える表現力を身に付けている。	○	○	○	○
【DP3】 社会正義を拠り所として、共に生きることができる社会を実現するために、多様な価値観を持つ人々と連帯・協働し、主体的に考えて行動できる実践力と高い倫理観とを身に付けている。	【学修目標3-1】 多様な価値観を持つ人々を認め、共生して社会をつくる態度を身に付けている。	○	○	○	○
	【学修目標3-2】 共生社会の実現のために多様な価値観を持つ関連する多職種と協働する力を身に付けている。	○	○	○	○
	【学修目標3-3】 共生社会の実現のために自ら考え主体的に行動する実践力を身に付けている。	○	○	○	○

【看護学科】

DP	学修目標	情報					
		各授業科目における達成状況	外部アセスメントテスト (GPS-Academic)	DP・カリキュラムに関する在校生調査	学修目標の達成度 (自己評価) 調査	看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標の達成状況	国家試験合格 (率)
【DP1】 生命の尊厳と人間性の尊重に基づき、人々の健康の維持増進と生活の質の向上に向けた看護を実践できる専門知識・技術を身に付けている。	【学修目標 1-1】 看護に必要な生命の尊厳と人間性の尊重について理解し、説明できる。	○		○	○	○	○
	【学修目標 1-2】 人々の健康の維持増進と生活の質の向上に向けた看護の実践に必要な専門知識について述べるができる。	○		○	○	○	○
	【学修目標 1-3】 人々の健康の維持増進と生活の質の向上に向けた看護を積極的に実施できる。	○		○	○	○	○
【DP2】 根拠に基づく看護実践と看護学の発展に向けた課題解決のための思考力を身に付け、自分の考えを適切に表現できる。	【学修目標 2-1】 看護現象 (看護実践に関連する健康の側面) について、根拠に基づいて筋道を立てて考えることができる。	○	○	○	○	○	○
	【学修目標 2-2】 看護における課題を見出し、幅広い視野で探求できる。	○	○	○	○	○	○
	【学修目標 2-3】 看護に対する自分の考えを適切に表現できる。	○	○	○	○	○	○
【DP3】 多職種や地域の人々と協働する姿勢のもとに、看護実践能力の向上に向けて、生涯にわたって主体的に学び続ける態度を身に付けている。	【学修目標 3-1】 多職種と連携、協働する態度を身に付けている。	○	○	○	○	○	
	【学修目標 3-2】 地域の多様な人々と協働し、健康問題に取り組む態度を身に付けている。	○	○	○	○	○	
	【学修目標 3-3】 看護実践能力の向上に向けて、主体的に学ぶ態度を身に付けている。	○	○	○	○	○	

【栄養学科】

DP	学修目標	情報						
		各授業科目における達成状況	外部アセスメントテスト (GPS-Academic)	国家試験対策模擬試験 (最終) における到達目標の達成状況	専門研究の水準	臨地実習学習記録	実践実習の実施記録	学修目標の達成度 (自己評価) 調査
【DP1】 科学的な根拠に基づいて栄養学を正しく理解し、栄養管理を実践するための基本的な知識や技能を身に付けている。	【学修目標 1-1】 公衆衛生、身体の仕組みや機能、食べ物や調理など、栄養管理を実践するための基本的な知識を身に付け、説明することができる。	○		○				○
	【学修目標 1-2】 公衆衛生、身体の仕組みや機能、食べ物や調理など、栄養管理を実践するための基本的な技能を身に付け、活用することができる。	○		○				○
【DP2】 栄養学の知識や技能を統合・活用して、課題を発見し、解決に向けた思考判断と実践ができるとともに、人々の健康増進や生活の質を向上させるための方法を分かりやすく説明することができる。	【学修目標 2-1】 健康や栄養状態に関する知識や技能を統合し、課題を発見する力を身に付けている。	○	○	○	○			○
	【学修目標 2-2】 健康や栄養状態に関する課題解決に向けて、適切な戦略を立て、実践することができる。	○	○	○	○			○
	【学修目標 2-3】 対象者の行動変容を促せるよう、健康増進や生活の質を向上させる方法を分かりやすく説明することができる。	○	○		○			○
【DP3】 管理栄養士として関連する多職種及び地域社会の人々と協働し、対人援助を通じてチームの一員として活躍するために自律的に学ぶことができる。	【学修目標 3-1】 多様化する社会に対応できるよう、専門性を高めるために主体的に学ぶことができる。	○	○		○	○	○	○
	【学修目標 3-2】 管理栄養士としての倫理観や職業観を持ち、課題解決に向けて主体的に行動することができる。	○	○			○	○	○
	【学修目標 3-3】 実践的な実習や専門研究を通して、多職種や地域社会の人々と協働する態度を身に付けている。	○	○			○	○	○

【国際文化学研究科(修士課程)】

DP	学修目標	情報		
		各授業科目における 達成状況	修士論文・修士制作 の水準	DP達成度に関する 学生の自己評価
【DP1】 国際文化に関する基盤となる知識を有し、地域社会の国際化や地域文化の多様な価値に関する学術的知識を自ら関わる現場に応用することができる。	【学修目標 1-1】 グローバルな感覚と共に、高度な異文化交流に関する知識と、地域の歴史・文化を深く理解するための知識を有する。	○	○	○
	【学修目標 1-2】 学術的知識を地域社会の国際化や地域文化の新たな発掘・創造に応用することができる。	○	○	○
【DP2】 国際文化に関する地域の諸課題を見出し、解決する方法を論理的に導くことができる。また、専攻分野の研究能力又は高度な職業的専門性をもって自らの思考や判断を的確に表現し、伝えることができる。	【学修目標 2-1】 国際文化に関する地域の諸課題を見出し、解決する方法を論理的に導くことができる。	○	○	○
	【学修目標 2-2】 専攻分野の研究能力又は高度な職業的専門性をもって自らの思考や判断を的確に表現し、伝えることができる。	○	○	○
【DP3】 人権を尊重する倫理観に基づき、学術的視点をもって、国際文化に関する諸課題の解決に貢献できる。また、個性豊かな地域文化の進展と人々が生き生きと暮らす社会の形成・創造にむけて地域社会の多様な人々と連携することができる。	【学修目標 3-1】 人権を尊重する倫理観に基づき、学術的視点をもって、国際文化に関する諸課題の解決策を提案できる。	○	○	○
	【学修目標 3-2】 個性豊かな地域文化の進展と人々が生き生きと暮らす社会を形成するため、地域社会の多様な人々と連携し、課題解決に向けた行動がとれる。	○	○	○

【健康福祉学研究科(博士前期課程)】

DP	学修目標	情報		
		各授業科目における 達成状況	修士論文の水準	DP達成度に関する 学生の自己評価
【DP1】 健康・福祉に関する 基盤となる知識を有し、 人の生命と生活及び人を 取り巻く環境について説明 できる。	【学修目標 1-1】 健康・福祉に関する基盤 となる知識を有する。	○	○	○
	【学修目標 1-2】 人の生命と生活及び人を 取り巻く環境について説 明できる。	○	○	○
【DP 2】 健康・福祉に関する 地域の諸課題を新た に見出し、解決する 方法を論理的に導く ことができる。また、 自らの思考や判断を 的確に表現し、伝える ことができる。	【学修目標 2-1】 健康・福祉に関する地域 の諸課題を新たに見出 し、解決する方法を論 理的に導くことができる。	○	○	○
	【学修目標 2-2】 自らの思考や判断を的確 に表現し、伝えることが できる。	○	○	○
【DP 3】 人権を尊重する倫理 観に基づき、研究的 視点を持って、健康・ 福祉に関する諸課 題の解決に貢献で きる。また、課題解 決のために、地域社 会の多様な人々と連 携することができる。	【学修目標 3-1】 人権を尊重する倫理観に 基づき、研究的視点を 持って、健康・福祉に 関する諸課題の解決策を 提案できる。	○	○	○
	【学修目標 3-2】 健康・福祉に関する諸課 題解決のために、地域社 会の多様な人々と連携す ることができる。	○	○	○

【健康福祉学研究科(博士後期課程)】

DP	学修目標	情報		
		各授業科目における達成状況	博士論文の水準	DP達成度に関する学生の自己評価
【DP1】 健康・福祉に関する高度な専門知識を有し、人の生命と生活及び人を取り巻く環境について、系統的かつ俯瞰的に説明できる。	【学修目標 1-1】 健康・福祉に関する高度な専門知識を有する。	○	○	○
	【学修目標 1-2】 人の生命と生活及び人を取り巻く環境について、系統的かつ俯瞰的に説明できる。	○	○	○
【DP2】 健康・福祉に関する地域の諸課題を新たに見出し、高度な論理的思考力に基づき解決のための研究方法を導くことができる。また、自らの思考、判断や創造を的確に表現し、根拠を持って発信することができる。	【学修目標 2-1】 健康・福祉に関する地域の諸課題を新たに見出し、高度な論理的思考力に基づき解決のための研究方法を導くことができる。	○	○	○
	【学修目標 2-2】 自らの思考、判断や創造を的確に表現し、根拠を持って発信することができる。	○	○	○
【DP3】 高度な創造力を持って、健康・福祉に関する諸課題の解決に貢献できる。また、高度な研究力に基づく転用力を備えて、多様な学問領域あるいは大学教育に貢献できる。	【学修目標 3-1】 創造力を持って、健康・福祉に関する諸課題の解決策を提案することができる。	○	○	○
	【学修目標 3-2】 高度な研究力に基づく転用力を備えて、多様な学問領域あるいは大学教育に貢献できる豊かな学識を有する。	○	○	○

【別科助産専攻】

DP	学修目標	情報		
		各授業科目における達成状況	臨地実習の学修記録	学生の自己評価
【DP1】 マタニティサイクルにある母児及び女性の生涯にわたる健康支援に必要な基礎的知識を有し基本的技術を実施することができる。	【学修目標 1-1】 マタニティサイクルにある母児の健康状態を診断するために必要な知識を述べることができる。	○	○	○
	【学修目標 1-2】 安全、安楽、母子及び家族が満足できる分娩介助に必要な知識・技術を修得し、実施することができる。	○	○	○
	【学修目標 1-3】 女性の生涯にわたる健康支援の知識を有し相談・教育活動が実施できる。	○		○
【DP 2】 マタニティサイクルにある母児及び女性の生涯にわたる健康上の課題を発見し、その解決策を論理的に思考し表現することができる。	【学修目標 2-1】 マタニティサイクルにある母児の健康状態を診断し説明することができる。	○	○	○
	【学修目標 2-2】 女性の生涯にわたる健康上の課題を発見し、解決する方法を論理的に説明することができる。	○	○	○
【DP 3】 変化する社会のニーズを踏まえて多職種や地域の人々と協働する役割を担うために、基盤となるリーダーシップ・フォローアップを身に付けている。	【学修目標 3-1】 様々な課題に対応するために関連する多職種との連携について具体的に述べることができる。	○		○
	【学修目標 3-2】 地域組織、当事者グループと助産師との連携について具体的に述べることができる。	○		○
	【学修目標 3-3】 助産師および他職種の業務内容・役割を認識し協働の意義を考えることができる。	○		○
【DP 4】 地域（山口県）の周産期医療・母子保健活動を推進に向けて主体的に取り組むことができる。	【学修目標 4-1】 地域（山口県）の周産期医療について説明できる。	○		○
	【学修目標 4-2】 地域（山口県）の母子保健に関心を持ち、地域の課題解決に向けた取り組みを表現できる。	○		○